

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 坂下高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和5年6月19日(月) 13:30~15:40
- 3 開催場所 坂下高等学校リハビリ実習室
- 4 参加者

<p>会 長 小幡 隆徳 坂下まちづくり協議会理事 副会長 鎌田 則之 やさか観光協会会長 委 員 須栗 大 中京学院大学教授 連携推進部長 村田 純一 坂下公民館長 尾石 光正 坂下中学校長 竹入 康治 坂下小学校長 山内 尚子 本校同窓会長 (欠席) 長瀬 愛 中津川市社会福祉協議会地域福祉課 桂川 容子 Charm Mates 会員 (欠席) 青山 里歌 本校保護者代表</p> <p>オブザーバー 森 益基 岐阜県議会議員 成瀬 博明 中津川商工会議所専務理事 岩久 義和 中津川市教育長 (欠席) 深津 広樹 中津川市定住推進部長 廣瀬 竜也 坂下総合事務所長</p> <p>学校側 田並 千穂 校長 足立 幸司 教頭 古田 和幸 事務長 板津 裕也 教務主任 勝川 誠 生徒指導部長 (欠席) 三輪 祐太 進路指導部長 岡本 拓郎 地域探究科主任 林 尚志 地域連携コーディネーター</p>	<p>会 長 小幡 隆徳 坂下まちづくり協議会理事 副会長 鎌田 則之 やさか観光協会会長 委 員 須栗 大 中京学院大学教授 連携推進部長 村田 純一 坂下公民館長 尾石 光正 坂下中学校長 竹入 康治 坂下小学校長 山内 尚子 本校同窓会長 (欠席) 長瀬 愛 中津川市社会福祉協議会地域福祉課 桂川 容子 Charm Mates 会員 (欠席) 青山 里歌 本校保護者代表</p> <p>オブザーバー 森 益基 岐阜県議会議員 成瀬 博明 中津川商工会議所専務理事 岩久 義和 中津川市教育長 (欠席) 深津 広樹 中津川市定住推進部長 廣瀬 竜也 坂下総合事務所長</p> <p>学校側 田並 千穂 校長 足立 幸司 教頭 古田 和幸 事務長 板津 裕也 教務主任 勝川 誠 生徒指導部長 (欠席) 三輪 祐太 進路指導部長 岡本 拓郎 地域探究科主任 林 尚志 地域連携コーディネーター</p>
--	--

5 会議の概要（協議事項）

(1) 学校運営基本方針の説明について【学校長、各分掌長による説明】

意見 1 : D 3 層とはどのような層であるか

⇒進学・就職しても、基礎学力が無く困る層である。本校では3年かけて基礎学力を伸ばし、D 3 層の生徒を無くしていく。

意見 2 : 福祉科として老人福祉のイメージがあるが、どの年代層へのターゲットとして教育を考えているのか。

⇒どの年代層ということではなく幅広く考えており、基本は介護福祉士に合格させることがまずは目標である。老人福祉系の施設に就職する生徒もいるが、資格を取得した上で看護師や上級学校を目指す生徒もいる。

(2) 本校の現状について【学校長、各分掌長による説明】

(3) 学校運営全般に関する意見交換について

意見 1 : デュアルシステムは非常に良い。自分のやりたいことが見つかる。結果として下級生にもその魅力が伝わっていく。

意見 2 : やさか地区が過疎地域となっているが、地域活性化のためにもイベントを開催し、高校生にも参加してほしい。地元商工会とは、企業カレンダーや飲食店マップ作りで連携している。地元を元気にしてほしい。

意見 3 : 地域探究科の活動が形に見えてきた。探究活動は主体的に動かないと結果が出てこない。さらに探究活動が進んでいくのが楽しみである。福祉科の入学者が昨年から増えた。福祉科での資格取得を、次を目指すステップにすることも考えられる。

意見 4 : 将来やりたいことが決まっていない生徒にとって、1年をかけてコース選択ができることがよい。デュアルシステムなど勤労観について継続的に指導することが大切である。

意見 5 : 保育コースの生徒が人形劇や寸劇に取り組み、披露することがあるとよい。人前に出ることで自己肯定感やコミュニケーション能力が高まるのではないかと。生徒の活躍を見せることで、本校のイメージを持つことができる。

意見 6 : 地域探究科の内容を知ることができ、どのような生徒を育成したいのかよく分かる。探究する能力を育てることは今必要なものであり、幅広い分野での人とのつながりを持たせることが大切である。

意見 7 : 地域探究科について具体的な取り組みができており、入口はできている。これからは出口（進路）を確保することが本校の魅力となってくる。福祉科については魅力を伝える工夫が必要である。学校案内での教育課程で特徴的な科目を色分けすると本校の特徴が伝わる。

意見 8 : 少人数であることと、それぞれの科の特徴を活かして他校にない教育を実践している。普通科と生活デザイン科の有終の美を飾ってもらうよう指導してほしい。

意見 9 : 学校全体が一つになって、取り組んだことが活かされている。Instagramなど SNS を使って学校の取り組みなどを一年間発信することができている。このまま継続してほしい。自己有用感をはぐくむことが自己肯定感、コミュニケーション能力を高める一歩である。

(4) オブザーバーから

意見 1 : 地元就職率が高い点が評価できる。卒業後の選択肢も広いことをアピールしてほしい。進学したとしても、将来戻ってきてもらえるようなふるさと回帰に通ずる教育をしてもらいたい。介護分野も看護分野と同様に資格がないと、仕事ができない時代が到来すると考える。デュアルシステムで連携した企業に就職できると理想的である。

意見 2 : 以前は広報等が上手くいってなかった。ここ数年で改善されている。定員割れしない学校を目指してほしい。中学生、保護者、地元住人にどう PR していくかが課題である。マーケティング力やプレゼンテーション力を付けるためにもいろいろ取り組んでほしい。福祉分野の第一人者の垣内さんの話はよい。ユニバーサル検定受検を検討してほしい。

意見 3 : デュアルシステムがよい。その後の地元就職、地元定着を目指してほしい。

意見 4 : 「地域と共に、地域と育つ」がよい。人口減少しているなか、現在中津川市に住んでいる人にいかに残ってもらうかが必要である。地元に着用を持つ取組について市と一緒に取り組むことによって、一人でも多くの人に地元に残してほしい。

6 会議のまとめ

- (1) 第 1 回学校運営協議会では、委員より今年度の本校学校運営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
- (2) 地域探究科については地域と連携しての教育活動が形となって動き始め、その活動が認められてきている。さらに中学生・保護者・地域住民に地域探究科の魅力を発信すると共に、進路を見据えた指導（出口戦略）を確立していかなければならない。福祉科については、介護＝老人福祉ではなく、介護福祉士の資格を取得した上での、進路先の多様性について発信するなど学科の魅力の理解を広めていき、志願者数の増加に繋げられるようにしていく。